

令和3年度 さいたま市立常盤小学校 自己評価書

校長 三島公夫



1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 学ぶ楽しさを実感できる授業を創造し、「真の学力」をはぐくむ
- (2) 児童一人ひとりのよさを生かし、「自己実現を図る力」をはぐくむ
- (3) たくましい体と健康や安全に気を付けて生活できる能力をはぐくむ
- (4) 地域と連携した教育を推進し、「郷土を愛する心情」をはぐくむ

2 評価結果について

- (1) 元文科省教科調査官(2人)を指導者として招聘し、指導力向上のための学校課題研究の充実を図った。また、第5・6学年で教科担任制による指導体制を構築した。学校評価アンケートでは、「授業が分かりやすい」の項目の肯定的回答が85%以上、「基礎的知識・技能の定着向上」「考える力や表現力の向上」の3項目において肯定的回答が90%を超えている。全国学力・学習状況調査においても、全国やさいたま市の平均を10ポイント以上上回り、同調査の国語・算数が好きだと答えた割合も全国平均を5～10ポイント上回っている。
- (2) 学者や弁護士、アスリート等、専門家を招いての授業を実施し、児童の心に染み入る講話やキャリア教育につながる事業を実施した。学校アンケートの「夢や希望、目標をもって生活しているか」の項目では、肯定的回答が85%に達している。報告・連絡・相談・見届けの徹底と外部機関との連携も含めた組織的な取組により、「連絡・相談に適切に対応しているか」「児童にきめ細かく対応し、児童理解に努めているか」の2項目ともに85%を超えている。
- (3) 感染症拡大防止の対策を十分に取りつつ、体育朝会や外遊び等の学年を割振りながら継続して実施し、体力向上の時間を確保してきた。感染症に係る指導だけでなく、実施方法を工夫しながら避難訓練や交通安全教室等の安全指導、歯の健康や食育等に係る指導も可能な限り行い、児童の意識を高めることに努めた。
- (4) さいたま市教委から主権者教育に係る研究委嘱を受けて研究発表会を開催し、社会にみられる課題や問題を自らの問題として捉え、判断する力を養うことに取り組んだ。また、学校運営協議会準備会を立ち上げ、スクール・コミュニティの創造に向けて常盤中学校区3校による合同会議を3回開催した。さらに教育活動への理解と協力を得るため、学校からの情報発信を積極的に行った。これらの取組により、「保護者や地域と協力した教育活動を進めているか」の項目では肯定的回答が90%となった。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- (1) 児童一人ひとりにとって「分かりやすい授業」が展開できるよう、学校課題研究を通じた授業改善をさらに充実させるとともに、一人1台端末を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指す。
- (2) 学習指導要領の趣旨の実現と感染症拡大防止の取組のバランスを考慮し、「教育の質」を維持できるようにし、いじめ・不登校・感染症対策への疲れ等にかかわって、児童の心のケアに配慮していく必要がある。